

TGR TEAM ZENT CERUMO

2023 AUTOBACS SUPER GT Report

MOTEGI GT 300km RACE GRAND FINAL

第8戦 モビリティリゾートもてぎ

ZENT CERUMO GR Supra

#38 立川祐路／石浦宏明

◆11月4日（土） QUALIFY

公式予選結果 12位



4月に岡山県の岡山国際サーキットで開幕した2023年のSUPER GTは、多くのドラマを経ていよいよ最終戦を迎えた。

『MOTEGI GT 300km RACE GRAND FINAL』と題された第8戦の舞台は、栃木県のモビリティリゾートもてぎだ。

そしてTGR TEAM ZENT CERUMOにとっては、大きな意味をもつ一戦となった。8月の第4戦富士を前にSUPER GTからの引退を表明した立川祐路にとって、泣いても笑ってもこれがラストレース。1999年から長きに渡ってチームを支えてきた男の最後の戦いとなる。立川がサーキット入りした11月3日（金）から取材や撮影が相次ぎ、立川は忙しさのなかで最終戦のレースウィークをスタートさせた。

迎えた11月4日（土）の予選日、モビリティリゾートもてぎは早朝から濃霧に包まれ、一時コンディションが心配されたが、次第に霧は晴れ午前9時25分からの公式練習はオンタイムでスタートした。ZENT CERUMO GR Supraは、まずは立川がステアリングを握りコースイン。



最後のSUPER GTの走りを噛みしめるように、それでいてしっかりと午後の公式予選に向けて感触を確かめながらピットアウト～インを繰り返していく。



TGR TEAM ZENT CERUMO



立川は18周をこなし1分38秒734というタイムを記録し、石浦宏明にZENT CERUMO GR Supraのステアリングを委ねた。ただ、ZENT CERUMO GR Supraはフィーリングは良いものの、いまひとつ良いタイムが出てこない。この頃にはモビリティリゾートもてぎの上空には青空も広がり、気温もグングンと上昇。石浦は精力的に14周を周回すると、チェッカー周に1分38秒207を記録。公式練習を14番手で終えることになった。石浦も立川と同じフィーリングで、やはり一発のタイムが出ない。

公式練習後、メインストレート上では立川の引退を記念したセレモニーが行われ、石浦から花束を受け取った立川は万感の思いでTGR TEAM SARD 協阪寿一監督がドライブするレクサス LC500 コンバーチブルに乗り込み、詰めかけたファンに感謝の思いを伝えると、家族が振るチェッカーフラッグを受けた。

しかし、まだ感傷的な気分に浸りきるのは早い。午後2時20分からスタートした公式予選で、ひとつでも前のグリッドを得るべくTGR TEAM ZENT CERUMOは気持ちを切り替え臨んだ。午後2時53分からスタートした公式予選Q1に臨んだのは石浦だ。



立川にバトンを繋ぐためにも、ファンの期待に応えるためにも大きなプレッシャーと戦うことになった石浦だが、気温23度／路面温度29度というコンディションのなか、慎重にタイヤをウォームアップさせると、5周目に1分36秒756というタイムを記録した。午前の公式練習から得られた改良を施したZENT CERUMO GR Supraの手ごたえは改善方向に進んでいた。



TGR TEAM ZENT CERUMO

しかしライバルたちが続々とタイムを更新していくなか、ZENT CERUMO GR Supra のポジションは次々と下がっていき、終わってみれば 12 番手。超僅差のなかではあったが、Q2 進出はならなかった。



これで ZENT CERUMO GR Supra は、11 月 5 日（日）の決勝レースを 12 番手からスタートすることになる。立川にとっては最後の SUPER GT でのレースだ。TGR TEAM ZENT CERUMO はひとつの悔いも残さぬよう、決勝日に向けて準備を進めていく。

ドライバー／立川祐路

「午前の公式練習から、フィーリングとしては悪くないのですが、タイムがいまひとつ出ない状況が続いていました。感触に対してなぜかラップタイムが良くなく、公式予選に向けていろいろとクルマのセッティングを進めていきましたが、残念ながら 12 番手という結果となりました。今日の僕たちの実力があの位置だったということだと思います。そして今日は僕の引退セレモニーをしてもらいましたが、今まで長い間 SUPER GT で戦ってきて良かったな、と思える一日になったと思います。いよいよ明日が SUPER GT という舞台で戦う最後になると思いますが、最後まで全力で追い上げるレースをできたらと思っています。最後の 1 周まで、ぜひ応援よろしくお願いします！」



ドライバー／石浦宏明

「公式練習の専有走行からニュータイヤを履きアタックを行ったりしていましたが、トップとは 1.6 秒の差がありました。また午前から少しストレートスピードが苦しい状況があったのですが、TCD さんの協力もあり、予選ではかなり解消されていたので、そこは本当にありがたかったですね。予選ではコースインして、クルマのセッティングを変更してき



TGR TEAM ZENT CERUMO

たことと、ラバーが乗ってきたことで良い手ごたえを感じてはいましたが、周囲もラップタイムが上がっており、0.2 秒ほど Q2 進出には足りませんでした。午前に比べると上位との差は縮まっていますが、少し足りませんでしたね。大事なのは明日ですし、どうやって追いつけるかだと思います。明日はスタートドライバーを務めますが、立川選手と戦う最後のレースになります。チーム全員がベストを出し切るレースにしたいと思っています」

村田淳一監督

「午前の公式練習から上位に対して少し差をつけられてしまいましたが、予選までにチームが頑張ってくれてかなり差を縮めることができました。ただいまひとつ足りなかったですね。昨年ももてぎでは GR Supra 勢が予選で下位に沈む状況になっており、その中に入ってしまったのが残念なところです。立川選手の予選ラストアタックをできず、申し訳なく思っています。決勝レースに向けてはこのところペースが向上しているので、引き続きエンジニア、ドライバーと話合ってもらい、しっかりと準備したいと思っています。立川選手のラストランをしっかりと締めくくってもらい、我々の来季のレースに向けて弾みがつくよう、頑張っていきたいと思っています」



ZENT

GR TOYOTA GAZOO Racing

BRIDGESTONE

PMU RACING PADS

HEISEL

LK HOMES

Felix88
RACING OIL

Fosbury

WAKOS

SANKI SHOKAI CO., LTD.

asics

トヨタ東大

JMS

SHIMWA BRAKE FLUID

AV

TGR TEAM ZENT CERUMO

予選結果

Rank	Car No.	CarName	Q2 Time	Q1 Time
1	3	Niterra MOTUL Z	1'35.539	1'35.929
2	17	Astemo NSX-GT	1'35.931	1'36.547
3	36	au TOM'S GR Supra	1'36.214	1'36.440
4	24	REALIZE CORPORATION ADVAN Z	1'36.335	1'36.382
5	23	MOTUL AUTECH Z	1'36.362	1'36.482
6	100	STANLEY NSX-GT	1'36.721	1'36.225
7	64	Modulo NSX-GT	1'36.879	1'36.609
8	14	ENEOS X PRIME GR Supra	1'36.895	1'36.156
9	16	ARTA MUGEN NSX-GT		1'36.614
10	1	MARELLI IMPUL Z		1'36.637
11	8	ARTA MUGEN NSX-GT		1'36.696
12	38	ZENT CERUMO GR Supra		1'36.756
13	37	Deloitte TOM'S GR Supra		1'36.829
14	19	WedsSport ADVAN GR Supra		1'37.344
15	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra		1'37.904

